

産婦人科学

1 構 成 員

| | 平成23年3月31日現在 |
|--------------------------|--------------|
| 教授 | 1人 |
| 准教授 | 2人 |
| 講師(うち病院籍) | 1人 (1人) |
| 助教(うち病院籍) | 6人 (3人) |
| 助手(うち病院籍) | 0人 (0人) |
| 特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む) | 1人 |
| 医員 | 5人 |
| 研修医 | 3人 |
| 特任研究員 | 0人 |
| 大学院学生(うち他講座から) | 2人 (0人) |
| 研究生 | 3人 |
| 外国人客員研究員 | 0人 |
| 技術職員(教務職員を含む) | 0人 |
| その他(技術補佐員等) | 9人 |
| 合計 | 33人 |

2 教員の異動状況

金山 尚裕(教授) (H11.11.1～現職)
 杉原 一廣(准教授) (H19.3.1～19.3.31 助教授；H19.4.1～現職)
 伊東 宏晃(病院教授) (H20.7.1～H21.3.31 講師；H21.4.1～H22.12.31 准教授；H23.1.1～現職)
 幸村 康弘(講師) (H17.7.1～19.3.31 助手；H19.4.1～H22.6.30 退職)
 宮部 勇樹(助教) (H17.7.1～19.3.31 助手；H19.4.1～現職)
 村上 浩雄(助教) (H22.4.1～現職)
 田村 直顕(助教) (H22.4.1～現職)
 加藤 誠(助教) (H22.10.1～現職)
 鈴木 一有(講師) (H19.6.1～H21.9.30 助教；H21.10.1～現職)
 中村 友紀(診療助教) (H20.10.1～現職)
 内田 季之(助教) (H21.6.1～現職)
 谷口千津子(特任助教) (H22.1.1～現職)

3 研究業績

数字は小数2位まで。

| | 平成22年度 |
|--|--------|
| | |

| | |
|--------------------|-----------|
| (1)原著論文数(うち邦文のもの) | 19編 (9編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 20.97 |
| (2)論文形式のプロシーディングズ数 | 0編 |
| (3)総説数(うち邦文のもの) | 19編 (19編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 0.00 |
| (4)著書数(うち邦文のもの) | 4編 (4編) |
| (5)症例報告数(うち邦文のもの) | 4編 (1編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 2.33 |

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Uchida T, Itoh H, Nakamura Y, Kobayashi Y, Hirai K, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N, Hiramatsu M: Zinc and magnesium ions synergistically inhibit superoxide generation by cultured human neutrophils - a promising candidate formulation for amnioinfusion fluid Journal of Reproductive Immunology. J Reprod Immunol 85, 209-213, 2010.
2. Inotsume-Kojima Y, Uchida T, Abe M, Doi T, Kanayama N: A combination of subcuticular sutures and a drain for skin closure reduces wound complications in obese women undergoing surgery using vertical incisions. J Hosp Infect 77: 162-165, 2011.
3. Tamura N, Ohno K, Miyasaki K, Sato K: Expression of stress fiber-associated protein CLP36 during differentiation of Rcho-1 trophoblast giant cell. Placenta 31, 743-745, 2010.
4. Tamura N, Sugihara K, Fukuda NM: Trophinin-mediated cell adhesion induces apoptosis of human endometrial epithelial cells through PKC-d. Cell cycle 10(1):135-43. 2011.
5. Kobayashi Y, Hayasaka T, Setou M, Itoh H, Kanayama N: Comparizon of phospholipid molecular species between terminal and stem villi of human term placenta by imaging mass spectrometry. Placenta 31: 245-248, 2010
6. Itoh H, Yura S, Sagawa N, Kanayama N, Konishi I and HBC Study Team: Neonatal exposure to leptin reduces glucose tolerance in adult mice. Acta Physiol 202: 159-164, 2011
7. Kanayama N, Inori J, Ishibashi-Ueda H, Takeuchi M, Nakayama M, Kimura S, Matsuda Y, Yoshimatsu J, Ikeda T. Maternal death analysis from the Japanese autopsy registry for recent 16 years: significance of amniotic fluid embolism. J Obstet Gynaecol Res 37(1): 58-63, 2011.
8. 伊東宏晃: 常位胎盤早期剥離の胎児死亡にどう対応するか、DIC の評価と制御の立場から 滋賀県産婦人科雑誌 2: 42-45, 2010.
9. 伊東宏晃: 食育の視点から見た妊娠高血圧症候群 日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 16: 11-12, 2010.
10. 伊東宏晃: 妊娠高血圧症候群と栄養管理 New Diet Theraphy 日本臨床栄養協会誌 26: 21-270, 2010.
11. 伊東宏晃: 我が国妊婦の体重管理における諸問題 日本医師会雑誌 139(10): 2095-2098, 2010.
12. 伊東宏晃: DOHaD: 臨床の視点から - Baker 仮説: どうして心疾患なのか? - 日本周産期・

新生児医学会雑誌 46(4): 943-948, 2010.

13. 伊東宏晃：わが国における妊娠高血圧症候群と栄養管理について 栄養学雑誌 69(1): 3-9, 2011.
14. 鈴木一有, 平井久也, 内田季之, 伊東宏晃, 金山尚裕, 大前悦子：近赤外線時間分解分光法を用いた妊婦脳循環モニタリング 日本妊娠高血圧学会雑誌 18: 153-154, 2010.
15. 杉原一廣：トロフィニンに着目した子宮内膜の機能調節とトランスレーショナルリサーチ 日本産科婦人科学会雑誌 63(1): 105-114, 2011.

インパクトファクターの小計 [18.80]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Tuchiya K, Matsumoto K, Suda S, Miyachi T, Ito H, Kanayama N, Hirano K, Ohzeki T, Takei N and HBC Study Team: Searching for very early precursors of autism disorders: The Hamamatsu Birth Cohort for Mothers and Children (HBC) J Dev Orig Health Dis 1: 158-173, 2010.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kakogawa J, Sumimoto K, Kawamura T, Minoura S, Kanayama N: Noninvasive monitoring of placental oxygenation by near-infrared spectroscopy. Am J Perinat 27(6): 463-468, 2010.
2. 秋永智恵子, 谷口美づき, 岡田尚子, 内崎沙貴子, 白石義人, 伊東宏晃, 佐藤重仁：高安病合併妊娠3症例の分娩と麻酔 分娩と麻酔 92: 7-12, 2010.
3. Oi H, Naruse K, Noguchi T, Sado T, Kimura S, Kanayama N, Terao T, Kobayashi H: Fatal factors of clinical manifestations and laboratory testing in patients with amniotic fluid embolism. Gynecol Obstet Invest 70 (2): 138-44, 2010.

インパクトファクターの小計 [2.17]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 伊東宏晃：妊娠中からの発達支援 栄養・食育 周産期医学 40(5): 585-588, 2010.
2. 金山尚裕：ウリナスタチン 産婦人科の実際 59(9): 1353-1361, 2010.
3. 金山尚裕：陣痛発来不思議—分娩期にCRPが陽性になるわけ— 周産期医学 40(11): 1585-1590, 2010.
4. 杉原一廣：接着分子トロフィニンによる着床促進 臨床婦人科産科 64(5): 862-867, 2010.
5. 杉原一廣：着床の基礎知識—トロフィニンの機能— 産婦人科治療 100(5): 905-912, 2010.
6. 杉原一廣：糖鎖を代用するペプチドを用いた分子標的薬 上原記念生命科学財団研究報告集 24 137, 2010.
7. 金山尚裕：羊水塞栓症 産婦人科の実際 60(1): 15-19, 2011.
8. 伊東宏晃：子宮内感染症 ペリネイタルケア 387: 34-39, 2011.

9. 平井久也, 金山尚裕: 静脈血栓塞栓症のリスク評価 臨床婦人科産科 65(2): 113-117, 2011.
10. 伊東宏晃: 生活習慣病との関連性 /SGA 児の長期予後 周産期医学 40: 245-247, 2010.
11. 伊東宏晃: 低出生体重の長期予後 産婦人科治療 102: 337-340, 2011.
12. 伊東宏晃: PIH 妊婦の栄養管理 /特集 今、改めて妊娠高血圧症候群を考える 産婦人科治療 102: 839-845, 2011.
13. 伊東宏晃: 4. 妊産婦の栄養指導 周産期医学 40 増刊号: 927-929, 2010.
14. 伊東宏晃: 33. 妊婦のやせ・肥満 周産期医学 40 増刊号: 117-119, 2010.
15. 伊東宏晃: 105. 常位胎盤早期剥離 (胎児死亡例) 周産期医学 40 増刊号: 374-377, 2010.
16. 金山尚裕, 内田季之: 産婦人科救急のすべて 弛緩出血 産婦治療 (100): 749-754, 2010.
17. 谷口千津子: 毛膜羊膜炎 産婦人科の実際 60 (3): 315-312, 2011.
18. 鈴木一有, 金山尚裕: 子宮胎盤循環 近赤外線分光法による胎盤機能の評価 周産期医学 40 (2): 1087-1090, 2010.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 竹内真, 金山尚裕, 吉松淳, 植田初江, 中山雅弘, 若狭朋子, 木村聡, 松田義雄, 池田智明: 妊産婦死亡の剖検方法とその注意点—厚生労働省研究班で作成した妊産婦死亡剖検マニュアルについて— 診断病理 28(1): 8-17, 2011.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕: 2. 産科的肺塞栓 b) 羊水塞栓 産科救急ハンドブッカー「産科危機的出血への対応ガイドライン」に基づく管理法— 総合医学社 : 234-239, 2010.
2. 伊東宏晃: 妊産婦の栄養指導 / 講義録 産科婦人科学 石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編 メディカルレビュー社 : 314-316, 2010
3. 伊東宏晃: 妊娠悪阻 / 講義録 産科婦人科学 石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編 メディカルレビュー社 : 317-319, 2010
4. 伊東宏晃: 胎児プログラミング / 合併症妊娠 改訂3版 村田雄二編 メディカ出版 : 502-508, 2011.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 乙咩雅子, 内田季之, 田島浩子, 矢田大輔, 望月亜矢子, 小林友季子, 中村友紀, 平井久也, 谷口千津子, 鈴木一有, 杉原一廣, 伊東宏晃, 有澤正義, 金山尚裕: 子宮内胎児死亡となり、癒着胎盤のため子宮全摘となった糖尿病性ネフローゼ症候群の1例 日本産婦人科学会関東連合地方部会会報 47(4): 431-435, 2010.
2. Yaguchi C, Oi H, Kobayashi H, Miura K, Kanayama N: A case of intravenous leiomyomatosis with

high levels of hyaluronan. J Obstet Gynaecol Res 36(2) : 454-458, 2010.

インパクトファクターの小計 [0.78]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Muramatsu K, Itoh H, Yamasaki K, Nakamura Y, Kobayashi Y, Hirai K, Suzuki K, Sugihara K, Sugimura M, Kanayama N: A case of a huge placental lake; prenatal differential diagnosis and clinical management. J Obstet Gynaecol Res 36: 165-169, 2010.
2. Tajima H, Itoh H, Mochizuki A, Nakamura Y, Kobayashi Y, Hirai K, Suzuki K, Sugihara K, Ohishi A, Ohzeki T, Kanayama N : Case of polyhydramnios complicated by Opitz G/BBB syndrome. J Obstet Gynaecol Res 36: 876-881, 2010.

インパクトファクターの小計 [1.55]

4 特許等の出願状況

| | 平成22年度 |
|--------------|--------|
| 特許取得数(出願中含む) | 1件 |

1. METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS
PCT application. December 23. 2010

5 医学研究費取得状況

| | 平成22年度 |
|--------------------|-------------|
| (1) 文部科学省科学研究費 | 4件 (880万円) |
| (2) 厚生科学研究費 | 1件 (100万円) |
| (3) 他政府機関による研究助成 | 0件 (0万円) |
| (4) 財団助成金 | 3件 (450万円) |
| (5) 受託研究または共同研究 | 1件 (57.7万円) |
| (6) 奨学寄附金その他(民間より) | 18件 (860万円) |

(1) 文部科学省科学研究費

- 金山尚裕 (代表者) 挑戦的萌芽 非侵襲的胎児パルスオキシメーターの開発 70 万円 (継続)
- 杉原一廣 (代表者) 基盤研究 (B) 腫瘍血管内皮を標的とする分子標的治療薬の開発 300 万円 (継続)
- 伊東宏晃 (代表者) 基盤研究 (B) 脂肪組織を核とした臓器間クロストークの視点から成人病胎児起源説の基礎的解析 390 万円 (継続)
- 鈴木一有 (代表者) 基盤研究 (C) 近赤外線分光法による胎盤酸素化動態に胎児循環がおよぼす影響についての基礎的検討 120 万円 (新規)

(2) 厚生科学研究費

- 金山尚裕 (分担者) 妊産婦死亡及び乳幼児死亡の原因究明と予防策に関する研究 100 万円 (継続) 代表者 国立循環器病センター周産期治療部 池田智明

(4) 財団助成金

- 伊東宏晃（代表者） 妊婦の脂肪代謝が母体、新生児の周産期事象におよぼす影響の解析 50万円（新規）女性健康科学研究会
- 伊東宏晃（代表者） 低出生体重児における乳幼児期の catch-up 率と成人期の肥満、糖尿病発症リスクの関連を解析するマウス動物モデルの開発 100万円（新規）（財）糧食研究会
- 伊東宏晃（代表者） 子宮内環境の制御機構ならびに児の長期的予後への影響の研究 -成人病発症リスクとしての子宮内環境因子の解析をめざして- 300万円（新規）神澤医学研究振興財団（新規）（神澤医学賞）

(5) 受託研究または共同研究

- 金山尚裕 研究成果最適展開支援事業フィージビリティスタディ【FS】ステージ 子宮筋およびその周辺組織の酸素動態測定器の開発 57.7万円（新規）

7 学会活動

| | 国際学会 | 国内学会 |
|----------------|------|------|
| (1)特別講演・招待講演回数 | 0件 | 21件 |
| (2)シンポジウム発表数 | 0件 | 4件 |
| (3)学会座長回数 | 0件 | 19件 |
| (4)学会開催回数 | 0件 | 0件 |
| (5)学会役員等回数 | 2件 | 31件 |
| (6)一般演題発表数 | 0件 | |

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 宮部勇樹：単孔式内視鏡手術（SILS）安全導入セミナー東海地方会 6月 名古屋
2. 伊東宏晃：神戸医療センター西市民病院第2回事例検討会「症例から学ぶ産科出血のリスクマネジメント」7月 神戸
3. 伊東宏晃：第24回小児成長研究会「低出生体重の長期予後-疫学から学ぶこと、その限界と今後の展望-」7月 東京
4. 金山尚裕：浜松医科大学公開講座2010「産婦人科からみたアンチエイジング」8月 浜松
5. 金山尚裕：杏林堂女性のための健康セミナー「女性ホルモンと美容、健康」8月 浜松
6. 金山尚裕：福岡県産婦人科医会臨時研修会「産婦人科周術期の安全管理」8月 福岡
7. 金山尚裕：東京オペグループ創立58周年総会「羊水塞栓症と産科DIC」8月 東京
8. 伊東宏晃：第1回羽衣セミナー／第23回静岡県母性衛生学会学術集会「血がとまらない、どうすれば」8月 静岡
9. 伊東宏晃：第32回日本臨床栄養学会総会・第31回日本臨床栄養協会総会 第8会大連合大会「妊娠高血圧症候群と栄養管理」8月 名古屋
10. 宮部勇樹：キッセイ薬品(株)社内講演会「子宮内膜症の診断と治療」9月 浜松

11. 杉原一廣：第8回静岡がん治療フォーラムーがん治療プロフェッショナル養成プランー「癌治療への新しい取り組み」 10月 浜松
12. 伊東宏晃：第12回KIGS講演会「疫学から学ぶ低出生体重の長期予後、その限界と今後の課題」 10月 名古屋
13. 金山尚裕：第50回浜松呼吸器セミナー「役に立つ女性ホルモンの話」 11月 浜松
14. 伊東宏晃：第10回DIJカンファレンス「妊婦の栄養摂取が脂肪代謝に及ぼす影響の解析ー児が成人後にメタボリックシンドロームを発症するリスク形成という視点からー」 11月 東京
15. 伊東宏晃：第19回静岡大学薬学卒後教育講座「低出生体重の長期予後ー疫学から学ぶこと、その限界と今後の展望ー」 11月 静岡
16. 宮部勇樹：全国ダイナゲスト研究会 1月 東京
17. 伊東宏晃：慈恵医科大学小児科講座「低出生体重の長期予後・疫学から学ぶこと、ーその限界と展望ー」 1月 東京
18. 金山尚裕：藤枝市職員健康管理研修「元気で健康な生活をめざして」 2月 藤枝
19. 金山尚裕：第13回産婦人科MEセミナー（西日本）「妊娠高血圧症候群の病態からみた管理」 2月 福岡
20. 伊東宏晃：妊婦健診率向上研修会「産科出血のリスクマネージメント」 2月 浜松
21. 宮部勇樹：持田製薬(株)社内教育「子宮内膜症に対する治療」 3月 浜松

3) シンポジウム発表

1. 杉原一廣：トロフィニンに着目した子宮内膜の機能調節とトランスレーショナルリサーチ 第62回日本産科婦人科学会 4月 東京
2. 杉原一廣：糖鎖をmimicするペプチドを用いた新規DDS型悪性腫瘍治療薬の開発 蛋白質および糖鎖解析によるバイオマーカー探索 第20回日本サイトメトリー学会学術集会 6月 東京
3. 伊東宏晃：「Small for Gestational Age (SGA) の病態と予防」「DOHaD：臨床の視点から」 第46回日本周産期新生児医学会 7月 神戸
4. 杉原一廣：糖鎖をmimicするペプチドIF7を用いた新規DDS型悪性腫瘍治療薬 第69回日本癌学会学術総会シンポジウム 9月 大阪

4) 座長をした学会名

- 伊東宏晃 第62回日本産科婦人科学会 4月 東京
金山尚裕 拡大一土会学術講演会 5月 静岡
金山尚裕 子宮内膜症セミナー 5月 浜松
杉原一廣 第20回日本サイトメトリー学会 6月 東京
金山尚裕 生殖医学研究会 6月 浜松
金山尚裕 第20回日本産婦人科・新生児血液学会 6月 浜松
金山尚裕 第46回日本周産期新生児医学会 7月 神戸

伊東宏晃 第46回日本周産期新生児医学会 7月 神戸
 金山尚裕 第28回日本受精着床学会 7月 横浜
 金山尚裕 第50回日本産科婦人科内視鏡学会 7月 東京
 金山尚裕 第33回日本母体胎児医学会 8月 東京
 金山尚裕 JSAWI2010 9月 淡路
 金山尚裕 第8回静岡がん治療フォーラムーがんプロフェッショナル養成プランナー 10月
 浜松
 金山尚裕 第18回日本胎盤学会 9月 熊本
 金山尚裕 第37回日本産婦人科医会学術集会ティータイムセミナー 10月 東京
 金山尚裕 第31回日本妊娠高血圧学会 10月 東京
 杉原一廣 第32回日本エンドメトリオーシス学会 1月 東京
 金山尚裕 第10回東海不妊内分泌研究会 1月 静岡
 金山尚裕 第13回産婦人科MEセミナー(西日本) 2月 福岡

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員
 金山尚裕 日本胎盤学会理事
 金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事
 金山尚裕 日本産婦人科学会関東連合地方部会理事
 金山尚裕 日本栄養代謝学会理事
 金山尚裕 日本周産期新生児学会代議員
 金山尚裕 日本生殖医学会代議員
 金山尚裕 日本母性衛生学会代議員
 金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会理事
 金山尚裕 日本産婦人科ME学会常任幹事
 金山尚裕 日本結合組織学会評議員
 金山尚裕 中部不妊学会代議員
 金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事
 金山尚裕 日本産婦人科医会静岡県支部理事
 金山尚裕 The Journal of Obstetrics and Gynecology Research 査読委員
 金山尚裕 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit 2009 学科
 会主催委員
 杉原一廣 日本産科婦人科学会代議員
 杉原一廣 日本産科婦人科学会関東連合地方部会代議員
 杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員
 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員
 杉原一廣 静岡 CTC(Cancer Therapy Conference) 世話人
 杉原一廣 静岡サイコoncロジー研究会世話人

- 杉原一廣 JOGR(The Journal of Obstetrics and Gynecology Research) 査読委員
- 杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡地方部会誌査読委員
- 杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡県地方部会日産婦専門医制度委員会委員
- 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員会医員
- 伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会評議員
- 伊東宏晃 日本内分泌学会代議員、評議員
- 伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会評議員
- 伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会代議員、評議員
- 伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会、周産期医療における未承認薬の承認にむけての活動委員
- 伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会、早産のリスク因子の解明と具体的な予防法確立に関する小委員会委員
- 伊東宏晃 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit 2009 学科会主催委員

8 学術雑誌の編集への貢献

| | 国内 | 外国 |
|-------------------|----|----|
| 学術雑誌編集数(レフリー数は除く) | 0件 | 0件 |

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 杉原一廣 2回、Cancer Science (Japan)
- 杉原一廣 2回、日本産科婦人科学会関東連合雑誌(日本)
- 金山尚裕 1回 JOGR 誌

9 共同研究の実施状況

| | 平成22年度 |
|------------|--------|
| (1) 国際共同研究 | 7件 |
| (2) 国内共同研究 | 4件 |
| (3) 学内共同研究 | 1件 |

(1) 国際共同研究

- 杉原一廣：腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)
- 杉原一廣：子宮内膜症に対する分子標的治療薬の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)
- 杉原一廣：新規超早期分子標的診断法の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA), 浜松ホトニクス株式会社
- 杉原一廣：着床率を改善する薬剤と方法の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)
- 杉原一廣：精子運動能と受精率を改善する薬剤の開発 Sanford-Burnham Medical Research

Institute (USA)

杉原一廣：着床における接着分子トロフィニンの分子機構解析 Sanford-Burnham Medical

Research Institute (USA)

杉原一廣：着床障害（不妊症）の原因遺伝子解析 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

(2) 国内共同研究

金山尚裕：子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（昭和大学，国立循環器病センター，浜松ホトニクス）

金山尚裕：コンピュータシミュレーションによる難産診断装置の開発（川崎医療短大）

金山尚裕：ウリナスタチンによる早産防止の検討（日本早産予防研究会）

杉原一廣：PETを用いた新規超早期分子標的診断法の開発（浜松ホトニクス株式会社）

(3) 学内共同研究

金山尚裕：子宮頸癌のPDT治療（光量子センター，生命科学）

10 産学共同研究

| | 平成22年度 |
|--------|--------|
| 産学共同研究 | 2件 |

1. 金山尚裕：胎児、妊婦の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（浜松ホトニクス）
2. 杉原一廣：PETを用いた新規超早期分子標的診断法の開発（浜松ホトニクス）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光学的手法を用いた胎盤の酸素動態を測定するための機器の開発

胎児の非侵襲的生化学的モニタリング法を開発を行っている。胎盤の酸素動態を直接あるいは間接的に監視できる機器の開発に成功した。これを用いて臨床的有用性を検討した。また分娩時の母体の脳酸素動態をモニタリングする方法を開発した。

（金山尚裕）

2. 光増感剤の局所投与キットの開発

現在子宮頸癌の光線力学治療に使用されているフォトフィリンは光過敏性物質であるため、治療後約4週間の入院が必要であった。局所投与で静脈投与と同程度の効果を発揮するキットを開発した。これを用いると入院期間が大幅に短縮されることが考えられる。今後臨床応用を行う予定である。

（金山尚裕）

3. 静脈血栓症の血液凝固学的予知マーカーは従来よいものは存在しなかった。プロテインCの感受性を測定する簡易方法を開発した。これを用いて妊婦の深部静脈血栓症、肺血栓

栓症の予知が可能になった。

(金山尚裕)

4. 腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発

腫瘍新生血管に発現する Annexin 1 を標的とする DDS 型新規治療薬を開発し抗腫瘍効果を確認した。

METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS

PCT application, December 23, 2010 (杉原一廣)

5. 不妊症、妊産婦のためのサプリメント“エンゼルストーク”を開発した。当大学初めてのサプリメントを販売した。

(金山尚裕)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. 浜松医大サプリメント“エンゼルストーク”を市場に販売した。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 女性の腹部手術穴1ヶ所だけで 2010年7月10日 中日新聞(朝刊)
2. 婦人科系疾患に「単孔式手術」痛み、美容的悩み軽減 2010年8月25日 静岡新聞(夕刊)
3. 杉原一廣：新規 DDS 型悪性腫瘍治療薬 2010年6月30日 日経バイオテク HEAD LINE NEWS
4. 内田季之：ふじのくに地域医療支援センター 女性医師支援シンポジウム開催について 2011年1月26日 静岡新聞